



11月は児童虐待防止月間です



子どもに対して体罰等が繰り返されると、心身の成長・発達にさまざまな悪影響が生じる可能性があり、体罰は決して許されないものであることが法律で定められています。子どもの権利が守られる体罰のない社会の実現に向けて、皆さんで取り組んでいきましょう。

【問い合わせ】子育て支援課子ども家庭担当(☎282-1711 内線1182)

子どもと上手に関わるために…

【イライラを認め、気分を落ち着かせる】

子育てはストレスがたまることもあります。原因は子どものことなのか、自分の体調の悪さや忙しさなどなのか…。振り返ってみると気持ちが落ち着くかもしれません。

【自分に合うやり方でストレスを解消する】

自分の時間や心に余裕がないときは、次の方法を試してみましょう。

▽深呼吸して気持ちを落ち着ける ▽ゆっくりと5秒数える ▽窓を開けて風に当たり気分転換をする

【周りの人に相談する】

一人で抱え込まず、周囲に相談することも大切です。子育てに悩んだときや、身近に悩んでいる人がいるときは、子育て支援課子ども家庭担当または右記へご相談ください。

子どもと関わる際の5つのポイント

- ▽子どもの気持ちや考えに耳を傾ける
- ▽子どもの状況に応じて、身の回りの環境を整える
- ▽注意の方向を変えたり、子どものやる気に働きかけたりする
- ▽肯定文で分かりやすく、時にはお手本となる
- ▽良いことやできていることを具体的に褒める

▽児童相談所虐待対応ダイヤル

いちはやく
☎189

▽児童相談所相談専用ダイヤル

いちはやく おなやみを
☎0120-189-783



「保育」という おしごと

— 保育者からのメッセージ —



子どもたちと過ごす毎日
かけがえのない時間です

私は、幼い頃から赤面症で人見知りだったため、保育の仕事に就きたいと両親に伝えた時には驚かれました。この仕事に就きたいと思ったきっかけは、中学生の時の職場体験でした。人見知りの自分に子どもたちは目を輝かせて接してくれて、とても幸せな気持ちになったことを今でも覚えています。

人前に出ることの多い保育の仕事を選んだことに自分でも驚きましたが、不安よりも「この仕事に就きたい」という気持ちが強かったのです。自信がなく引込み思案な私でしたが、この仕事を選んだことを後悔したことはありません。どんなに大変

なことがあっても、子どもたちの世界はいつも純粋で、その温かさや優しさに触れる毎日に笑顔が絶えることはありません。子どもたちの裏表のない素直な心に向き合うことで、自分自身も多くのことを学び、その時間が「自分は自分のままでいい」と思わせてくれました。

就職して長い年月が経ち、若い頃に担任した子が保育実習生として職場に来る機会がありました。おとなしいけれど、とても頑張り屋さんだったその子が以前と変わらず一生懸命な姿を見てうれしくなりました。偶然お母さんに会った際、「みんなにないなかつた保育所生活を楽しくしてくれただ先生の姿を見て、自分

も周りになじめない子や問題を抱えた子を笑顔にしたい」と幼い頃から保育者を目指していたと聞き、感動して涙が出ました。保育という仕事は、子どもたちの人生の土台となる大切な時期に携わる責任のある仕事だと思えます。その分やりがいもありますし、何より子どもたちと過ごす毎日かけがえのない時間です。子供たちと育ち合えるすてきな時間を、一緒に過ごしてみませんか。

須和間幼稚園
金田亜紀子 主幹教諭